

福岡共同 公文書館だより

Fukuoka Communal Archives

vol.10

平成29年3月
March 2017



▲世界に1つの和綴じ手帳が完成しました



▲100年前の公文書に見入る
「親子で作る和綴じ手帳」参加者



▲大学生に教えてもらいながら
楽しく和綴じ手帳を作りました



▲家族で協力して針を使った
四つ目綴じにチャレンジ!

TOPICS

平成28年度第1回企画展

「戦争と人々の暮らし～残された公文書と戦時資料～」……………2～3ページ

- 講演会「戦時下の働く女性と子どもたちの暮らし」……………4ページ
- 公開講座「親子で作る和綴じ手帳」……………4ページ
- 出前展示(パネル展、於 アクロス福岡)～みんなおいでよ!公文書館へ～……………5ページ
- インターンシップを終えて(平成29年春季研修生感想文)……………6ページ
- 活動報告/市町村の選別支援を実施/選別会議実施状況……………7ページ

「戦争と人々の暮らし」

「残された公文書と戦時資料」

平成28年7月20日(水)～9月25日(日)まで、

平成28年度第1回企画展「戦争と人々の暮らし」残された公文書と戦時資料」を開催しました。先の戦争では、女性や子どもまでもが、「ぜいたくは敵だ」「欲しがりません勝つまでは」などの標語のもとに、物資不足に堪え、戦争に協力しなければなりません。展示会では、当館が所蔵する公文書のなかから、そうした戦時下の人々の生活に関わる資料を展示しました。その一部を次にご紹介します。



① 銃後の奉公

戦時下の日本では、非戦闘員である国民に対しても、背後で戦争や兵士たちを支援する役割が求められました。このいわゆる「銃後」の活動は、全国の市町村につくられた在郷軍人会や、国防婦人会、青年団などの地域団体を中心として行われました。活動の主な内容は、軍事訓練、出征兵士の歓送、軍人・傷痍軍人並びに留守家族の援護、労働奉仕、慰問袋の調達、防空演習などでした。

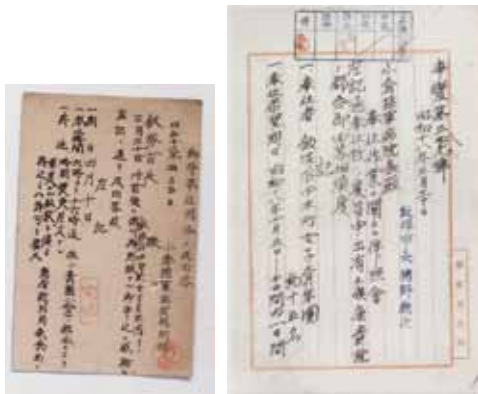
福岡県内の市町村における銃後活動の一端を示す資料として、『昭和18年度事変事蹟』（飯塚市）があります。この資料は、飯塚市から移管された公文書で、主に市の兵事課が担当した業務文書を綴った簿冊です。市行政や市民生活に、戦争がどのような形で関わっていたかを示す貴重な資料といえます。

この中に、地元の町内会や青年団、職場の組合などから、県内の各陸軍病院における清掃などの奉仕作業や演芸慰問をしたいと申し出た文書があります。これらの申し出を受け付けた兵事課は、病院に照会し、病院側から、受け入れ

の可否、日程や人数、服装の注意点などの回答を受けて、申請者へ伝達しました。このような銃後活動は、それぞれの団体の機関紙や、新聞などに掲載される場合もあり、活動を推進する広報の役割も果たしていたと考えられます。

② 食糧の配給

戦争は、人々の食生活にも大きな打撃を与えました。長引く戦争で輸入が断たれ、働き手の応召などによって国内生産量が落ち込むと、深刻な食糧不足の事態におちいりました。政府は、生産や価格の統制を進めるとともに、流通を統制する配給制度を実施しました。昭和15年には砂糖、翌16年には主食である米、17年には塩、味噌、醤油などの調味料が次々と配給制になりました。戦争末期になるにつれ、配給量は減



(右) 飯塚市から小倉陸軍病院への照会文書
(左) 小倉陸軍病院からの回答
注意事項として「華美ナル服装ヲ慎」むこと、とある

つていき、貴重品である米や麦は、水で増すか、芋や雑穀などを混ぜるなどの工夫を施さなければ、家族の空腹を満たす量に足りませんでした。

『姫治村例規綴(食糧)』は、うきは市から移管された公文書で、昭和15年から同20年までの浮羽郡姫治村における食糧配給などに関する事蹟をまとめたものです。この中の、味噌・醤油の配給統制に関する福岡県からの通達(「味噌・醤油配給統制に関する件」(昭和17年)には、味噌・醤油の配給開始に際し、一人当たりの配給割当量や実施時期などの情報が記載されています。しかし、当初の計画では地域ごとに開始時期がずれていたことから、情報が外部に漏れると買漁りや混乱を招く恐れがあるとして、「(極秘トスルコト)」と記され、マル秘の朱印が押されています。生活の根幹ともいえる食糧の統制だけに、ことさら慎重に事を進めていた様子がわかる資料です。また、「育児用乳製品割当配給に関する件」は、浮羽地方事務所から姫治村に通知された、育児用乳製品の村割当量を示した文書ですが、昭和18年5月分と同年10月分とを見比べてみると、5か月間に割当が30缶減少しています。配給を受けるための条件も厳しくなっており、「産めよ増やせよ」という政府のスローガンをよそに、食糧不足の影響は、乳幼児にも等しく降りかかったことがうかがえます。

3

市町村葬



「秘」の朱印が押された味噌醤油配給統制についての文書

出征兵士のふるさとの市町村では、戦死した兵士に対して、公葬を執行しました。戦争末期には、簡略化されたり、執行されない場合もありましたが、国のために命を落とした兵士たちを「英霊」として称え、首長が先頭に立ち、町を挙げて弔いました。近隣の市町村長には、参列を求める葬儀開催案内が送られました。先に掲げた飯塚市の『昭和18年度事変事蹟』にも、飯塚市長宛てに各市町村長から届いた葬儀案内状が綴られています。案内状や記載される戦死者の人数は、月を追うごとに増加し、昭和18年末になると、毎日県内のどこかしらで市町村葬が執行されているような状況が見て取れます。

こうした葬儀の案内状からも戦局が悪化している様子がうかがえるのです。

ここでご紹介した当館の公文書のほかに、福岡県からは灯火管制用電球、陶器製防衛食など、久留米市教育委員会からは昭和18～19年に刊行された婦人雑誌や、千人針の腹巻、国防婦人会のたすきなど、三池カルタ歴史資料館からは、国家総動員よくさんかるたや銃後国民標語かるたなどの、戦時下で実際に作成使用された様々なモノ資料を借用し、当時の生活を視覚的にご紹介することができました。ご協力を賜った皆様に、この場をお借りして深く感謝いたします。

開催期間中、532名の皆様にご観覧いただきました。ありがとうございました。



講演会・公開講座を 開催しました

7月31日(日)

「戦時下の働く女性と 子どもたちの暮らし」

講師 昭和館学芸部学芸課資料係

吉葉 愛 氏
よしば あい

平成28年度第1回企画展「戦争と人々の暮らし」に残された公文書と戦時資料」に関連して、講演会を開催しました。

まず初めに吉葉先生がお勤めの昭和館についてご紹介されました。昭和館は、東京都千代田区九段下にある国立の施設です。国民が経験した戦中・戦後の生活に関わる歴史的資料・情報を収集、保存、展示し、その時代に生きた人々の労苦を次世代に伝えるために設立されました。

講演の前半では、戦前に登場した職業婦人のおもな職種等についてご紹介されました。その後、昭和12年に日中戦争が勃発すると、女性の社会的役割は次第に増加し、銃後の護りを行ったことなどをお話されました。

後半では、戦時中の国民学校の生徒が書いた日記等をいくつかご紹介されました。終戦の日に5年生が書いた日記には、日本が戦争に降伏しなければならなくなったことについて、先生から聞いた話を交えて書かれていました。「天皇陛下のおつしやった内容を先生から聞くと、涙が、後から後から出てきて困り、ご飯をたべるのも忘れて泣いた。私達が戦争に敗れた日本を立て直すのだと私はかたく心にちかつた」という内容です。

今回の講演会に参加された方からは、「吉葉先生のお話に引き込まれて、あつという間に時間が経過した」というご感想をいただきました。終



▲会場には56名の方にお越しいただきました

戦から70年以上が経過した今、同じ悲劇を繰り返さないために、戦争の悲惨さと平和の尊さについて語り継いでいく活動の大切さを改めて感じました。

今後も、企画展に関連して様々な講演会を開催していきますので、ぜひ多くの方々にご参加いただければ幸いです。

8月27日(土)

「親子で作る和綴じ手帳」

講師 福岡女子短期大学

文化コミュニケーション学科

准教授 倉本 優子 氏
くらもと ゆうこ

本講座には、小中学生と保護者総勢30名が参加されました。講座開始前には、公文書館を紹介したDVDを鑑賞した後、選別室や文書保存庫などのバックヤードを見学しました。皆さん、公文書館に初めて来館された方ばかりで、普段なかなか入ることができないバックヤードで明治時代以降の歴史公文書等に興味深い様子で見入っていました。

講座では、和本の種類等について、先生が紹介された後、親子で和綴じ手帳づくりのワークショップを実施しました。

講座に参加した皆さんは、1人1冊ずつ「四つ目綴じ」の和綴じ手帳を作っていたきました。和紙に穴をあけ、針と糸を通すなど、細かい作業が続きましたが、親子で教え合ったり、お手伝いの大学生にも教えてもらいながら、それぞれの和綴じ手帳を完成させることができました。参加者からは、「子どももゆつくり作れて、説明がとても分かりやすかった」、「子どもと一緒に作るのがおもしろかった」などの感想が寄せられました。

当館では、今後も、来館者が気軽に参加できる公開講座を実施していきます。様々な催しを通して、公文書館を身近に感じていただきたいと思います。



▲和紙で和綴じ手帳の表紙を作っています

出前展示を 開催しました

(アクロス福岡 コミュニケーションエリア)

平成29年1月30日(月)から2月12日(日)まで、アクロス福岡の1階コミュニケーションエリア内で、「福岡共同公文書館パネル展」みんなおいでよ！公文書館へ」を開催しました。

本展示では、当館の文書保存の取り組みを紹介し、廃藩置県や地方自治の変遷、市町村合併など、明治期以降の福岡のあゆみを、当館所蔵の公文書(パネル)で振り返りました。また、展示スペース内の大型ビジョンでは、当館の紹介動画を放映しました。

期間中は、5605名の方に会場へ足を運んでいただき、多くの方に当館の活動を知っていただくことができました。

今後も、当館を皆様に幅広く知ってもらえるよう、福岡県内各地で同様の出前展示を開催いたします。



▲公文書館の仕事を動画で紹介しました



▲13枚のパネルをご覧くださいました

インターンシップを終えて…

平成29年2月24日～3月2日、インターンシップ研修を実施しました。
その時に感じたことや学んだことを2名の研修生に綴っていただきました。

私はインターンシップを通して、公文書館の必要性和公務の空気を学びました。

ここでは文書班の下で、選別や配架といった、実際に文書を取り扱う研修を受けます。そこで私は公文書の専門性、難しさを学びました。選別という仕事があり、ここでは受け取った公文書を残すべきかどうかを決めます。私は、最終決定を決める選別会議までの研修を受けました。担当者に多く質問したと思っていました。私の選別には、いくつかの穴があることが判明しました。原因はそもそも公文書をどう読むべきかわからないので、何を聞くべきか把握できていないことだと考えています。そのくらい公文書は専門性が高く、長く携わらないと扱いにくいものだと思います。だから公文書は長い期間、保存し続ける必要があります。一般市民が読むには専門性が高く、時間がかかるからです。公文書は経緯や責任者を明記していますから、行政的な問題を発見する上で重要です。問題には市民も関わるケースも多くありますので、市民も公文書を読む必要があります。ですが、文書に慣れていませんので、読むのに時間がかかります。公文書館は、保存という形で、慣れない人でも読める時間を確保していると思います。

また、このインターンシップでは総務企画班の研修を受けます。率直



な感想を言いますと、地味だと思いました。ですが、公文書館を動かす上では、この地味な仕事が必要不可欠です。公文書を公開する過程には個人情報など、様々な取り決めがあります。公文書の数は多様かつ膨大です。その文書を捌くには、それなりの人材が必要になります。他にも広報やイベント企画など、雑用に近いくらい広範囲の仕事があります。公務員はジェネラリストという、多様な仕事ができることを求められると聞きます。それを体現している存在が総務企画班なのではないかと、私は身をもって感じました。

私は公務員志望ですが、今まで現場の空気を知りませんでした。今回の研修で公務の必要性和現場の空気を、少しでも感じられたことが収穫だと思っています。

(北九州市立大学 在間 仁志郎)

私はこの度、福岡共同公文書館で五日間のインターンシップを経験させていただきました。短い期間ではありましたが、公務員の仕事について学ぶことができたと思います。

インターンシップ前半では、福岡共同公文書館の役割について学び、主に講演会の実施補助や事務作業の補助をさせていただきました。講演会においては、受付業務や設営準備以外にも、講師の方にお茶を出すという経験をさせていただきました。こうした接遇はどこに行っても必要なことだと思います。曖昧になつている、マナーに関する知識を見直す、いい機会となりました。講演会後は、アンケートの集計作業を行いました。作業を分担して行つたのですが、自分の担当分だけを考へていて些細なミスをしてしまいました。余計に時間がかかってしまいました。仕事をすることは、周りのことに



も気を配ることが大事だと感じました。

インターンシップ後半では、公文書の選別作業や配架作業などを経験させていただきました。初めての選別作業ではありましたが、質問に丁寧に答えていただいたおかげで、やり遂げることができました。会議にかけた際に誤字を発見した時は、自分の見直しの甘さを痛感しました。見直しは何事にも通ずることですので、今後は気を付けるようにしたいと思います。配架作業では、膨大な量の公文書を保管する保存庫に圧倒されました。公務員は事務作業のイメージが強かったのですが、配架作業は体力も必要となる業務で、そうしたイメージをいい意味で覆してくれました。

この五日間で、私の中の公務員のイメージと、現実とのギャップを大きく埋めることができたと思います。公務員になりたいという気持ちが一層強くなり、試験勉強のモチベーションを上げることができました。福岡共同公文書館職員の方々の対応は丁寧で、そのおかげで、業務について非常に理解しやすく、公務員という仕事に親しみをもてました。いくら感謝しても足りないくらいです。インターンシップを受け入れていただき、誠にありがとうございました。

(近畿大学 梅田 真衣)

活動報告

平成28年

- 8月12日 中讃広域行政事務組合【視察 7名】
- 8月24日 鶴見大学【視察 2名】
- 8月27日 公開講座「親子で作る和綴じ手帳」開催 子どもと保護者合計30名
(講師 福岡女子短期大学 文化コミュニケーション学科 准教授 倉本 優子氏)
- 8月27日 「親子で作る和綴じ手帳」参加者【施設見学 30名】
- 8月27日 公開講座「親子で作る和綴じ手帳」の取材(ケーブルステーション福岡)
- 8月27日 公開講座「親子で作る和綴じ手帳」の放送(ケーブルステーション福岡)
- 8月28日 公開講座「親子で作る和綴じ手帳」の放送(ケーブルステーション福岡)
- 10月19日 福岡県弁護士会【視察 5名】
- 11月24日 日本文書情報マネジメント協会【取材 1名】
- 11月29日 平成28年度第2回運営専門協議会(県・組合合同開催)
- 12月22日 広川町【視察 2名】

平成29年

- 1月17日 福岡県自治振興組合【視察 1名】
- 1月21日 公開講座「はじめてのくずし字」開催 55名
(講師 当館 荻野 寛美 相談員)
- 1月21日 「はじめてのくずし字」参加者【施設見学 55名】
- 1月24日 平成28年度第1回特定歴史公文書利用審査会(県・組合合同開催)
- 1月30日 福岡共同公文書館パネル展～みんなおいでよ!公文書館へ～
期間(～2/12) 場所(アクロス福岡 1階コミュニケーションエリア)



▲福岡県弁護士会視察

福岡県弁護士会の情報問題対策プロジェクトチームから5名の弁護士が公文書館を訪れ、本館の設立経緯や運営等について説明の後、館内見学を行いました。



▲公開講座「はじめてのくずし字」

くずし字講座に、55名参加されました。講座では、くずし字学習の基礎となる仮名文字の読み方、くずし字辞典の使い方などを学びました。

市町村の選別支援を行っています

公文書館では、歴史公文書の移管促進のため、市町村に対して様々な支援を行っています。

職員説明会：公文書館職員が市町村に出向き、歴史公文書の重要性や選別方法を知っていただく説明会を開催しています。

目録選別：公文書リストの中から歴史公文書の候補を選び出します。

現地選別：実際に公文書を見て、歴史公文書を選び出します。

※写真は、現地選別の様子です。公文書館職員が各市町村に出向き、公文書の内容を1冊ずつ確認して、歴史公文書に当たるかを判断します。



選別会議実施状況

選別会議…自治体から1次選別を経て搬入された公文書について、評価選別基準により2次選別を行います。2次選別の結果、当館へ移管しないこととなった公文書については、原則として、搬入元の自治体に返却します。

久留米市	八女市	福津市	中間市	宇美町
春日市	大野城市	朝倉市	筑後市	

▲平成28年8月から平成29年1月までの分

会議室・研修室を利用できます

福岡共同公文書館では、会議室・研修室を有料で貸し出しています(要事前申込み)。施設の使用料金は下記をご参照ください。

- 会議室は、少人数の会議やサークル活動などにご利用いただけます
- 研修室は、音響・映像システムを備え90名まで収容できるため、講演会や講習などにご利用いただけます(駐車スペースが豊富です)
- 目的によっては、ご利用いただけない場合があります



施設使用料金

	収容人数	面積	金額(1時間につき)
会議室	16名	58㎡	390円
研修室	90名	171㎡	1,150円

複写サービス

白黒	1枚	10円
カラー	1枚	30円
マイクロフィルムからの印刷	1枚	10円



▲研修室を借りて「講演会」を開催されている様子



▲会議室を利用されている様子



▲正面駐車場には13台駐車できます



▲建物裏にも駐車できます

公文書館を見学しませんか？

公文書館がどのような所なのか分からないという声を聞きます。そこで、当館を身近に感じていただきたく、館内見学会を実施しています。少人数での見学も歓迎します。

また、学校の社会科見学や総合学習、コミュニティ活動などの一環としても施設見学(要事前申込み)を受け入れていますので、お気軽にお問い合わせください。

交通アクセス

- JR二日市駅より徒歩約13分または西鉄バス警察署前バス停より徒歩約1分
- 西鉄二日市駅より下車、西鉄バス警察署前バス停より徒歩約1分
- 九州自動車道「筑紫野インター」より車で約5分

福岡共同公文書館

〒818-0041 福岡県筑紫野市上古賀1丁目3番1号

お問い合わせ:092-919-6166

Mail:kobunsyokan@pref.fukuoka.lg.jp

ホームページ:http://kobunsyokan.pref.fukuoka.lg.jp/



福岡共同公文書館には宝くじの収益金が活用されています。